

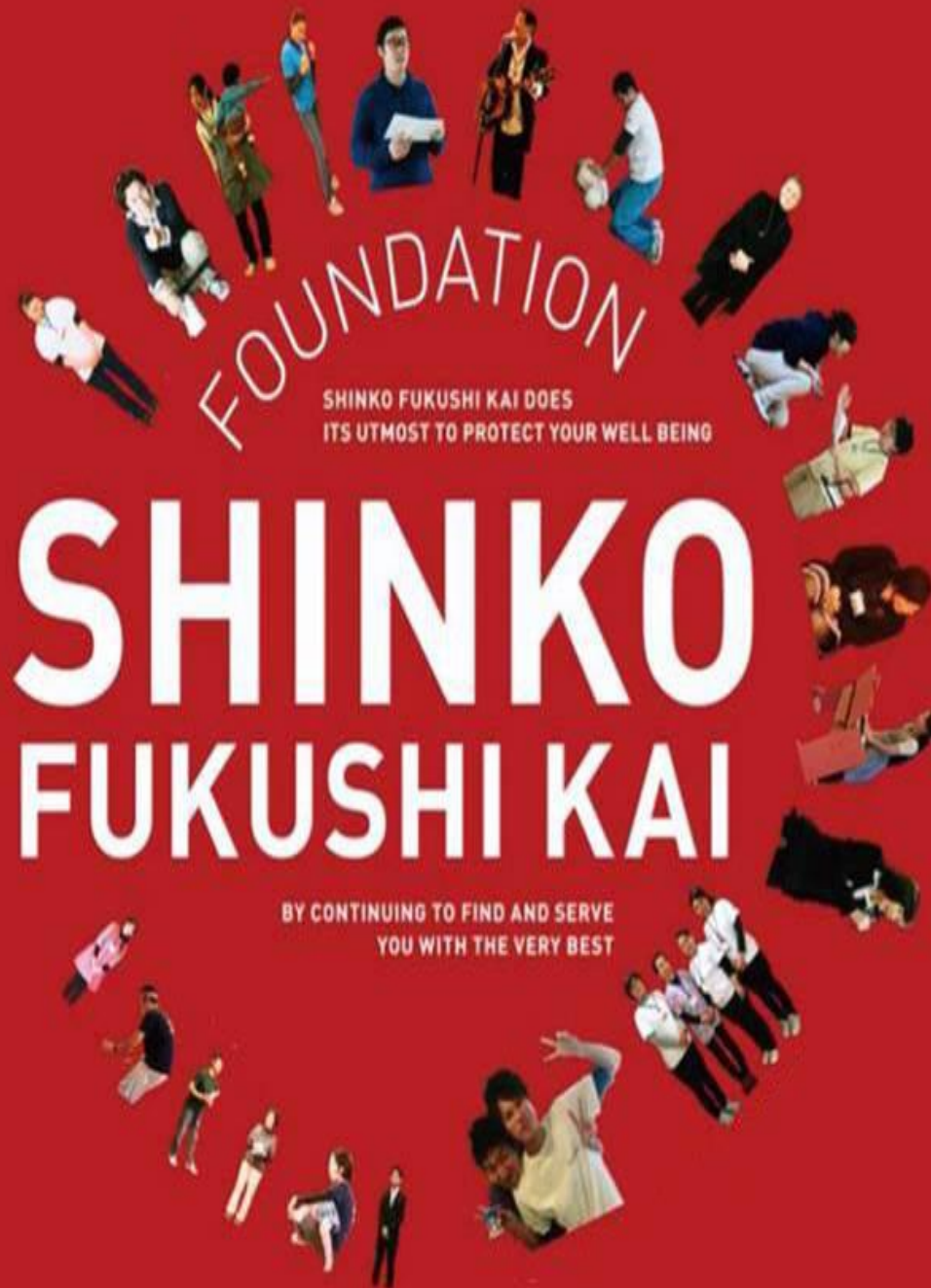
日本の少子高齢化時代に おけるダイバーシティ介護 人材の育成について

前例がない。
だから、やる。

SHINKO
FUKUSHI KAI

社会福祉法人 伸こう福祉会
国際室 林 燕

目次



1

日本の介護人材現状

2

国や地域の取組

3

現場のダイバーシ
ティ人材育成

4

伸こう福祉会の取組

5

課題

6

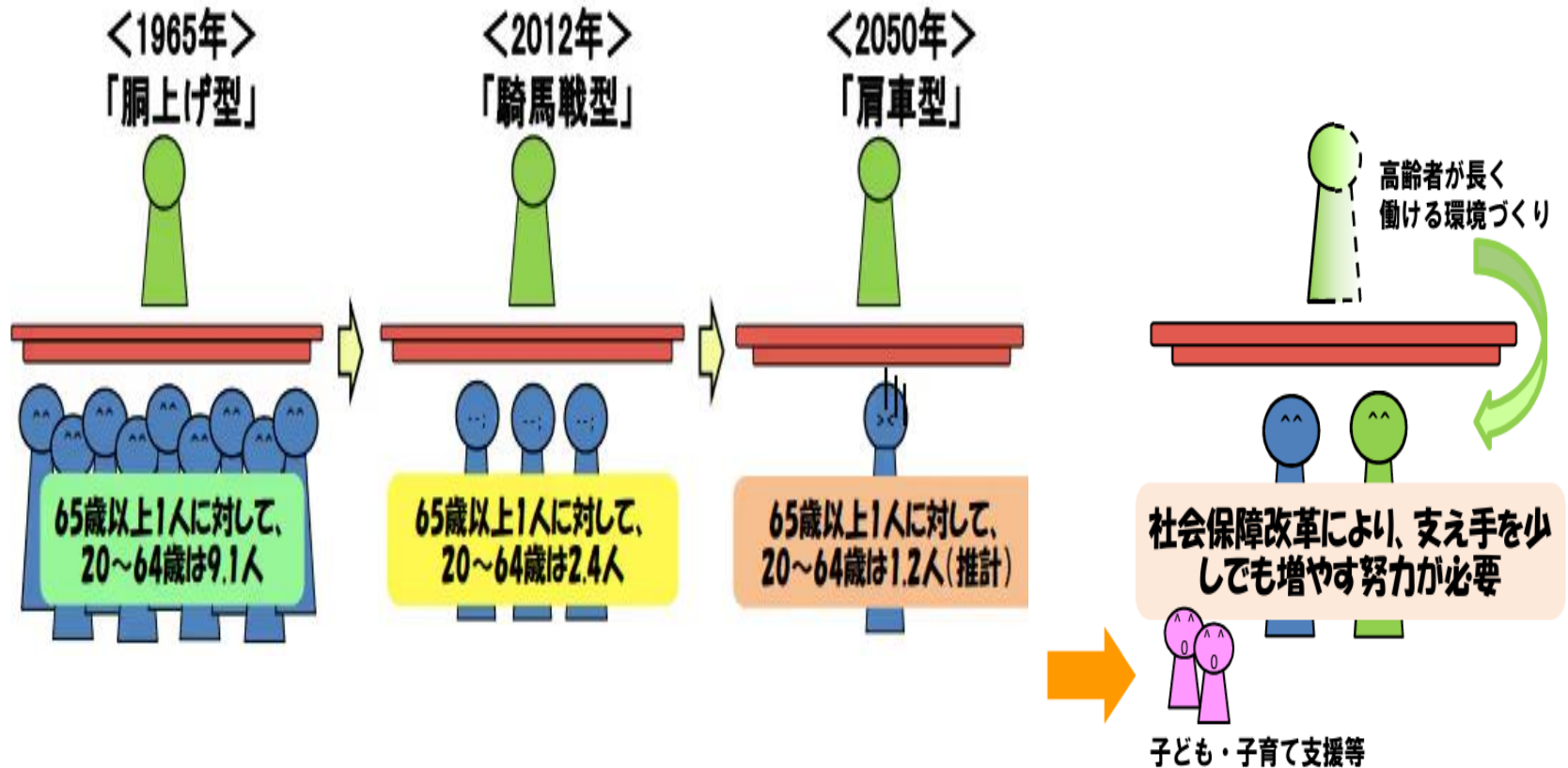
日中介護人材の展望



Crossheart

「肩車型」社会

	2012年8月	2015年	2025年	2055年
65歳以上高齢者人口(割合)	3,058万人(24.0%)	3,395万人(26.8%)	3,657万人(30.3%)	3,626万人(39.4%)
75歳以上高齢者人口(割合)	1,511万人(11.8%)	1,646万人(13.0%)	2,179万人(18.1%)	2,401万人(26.1%)



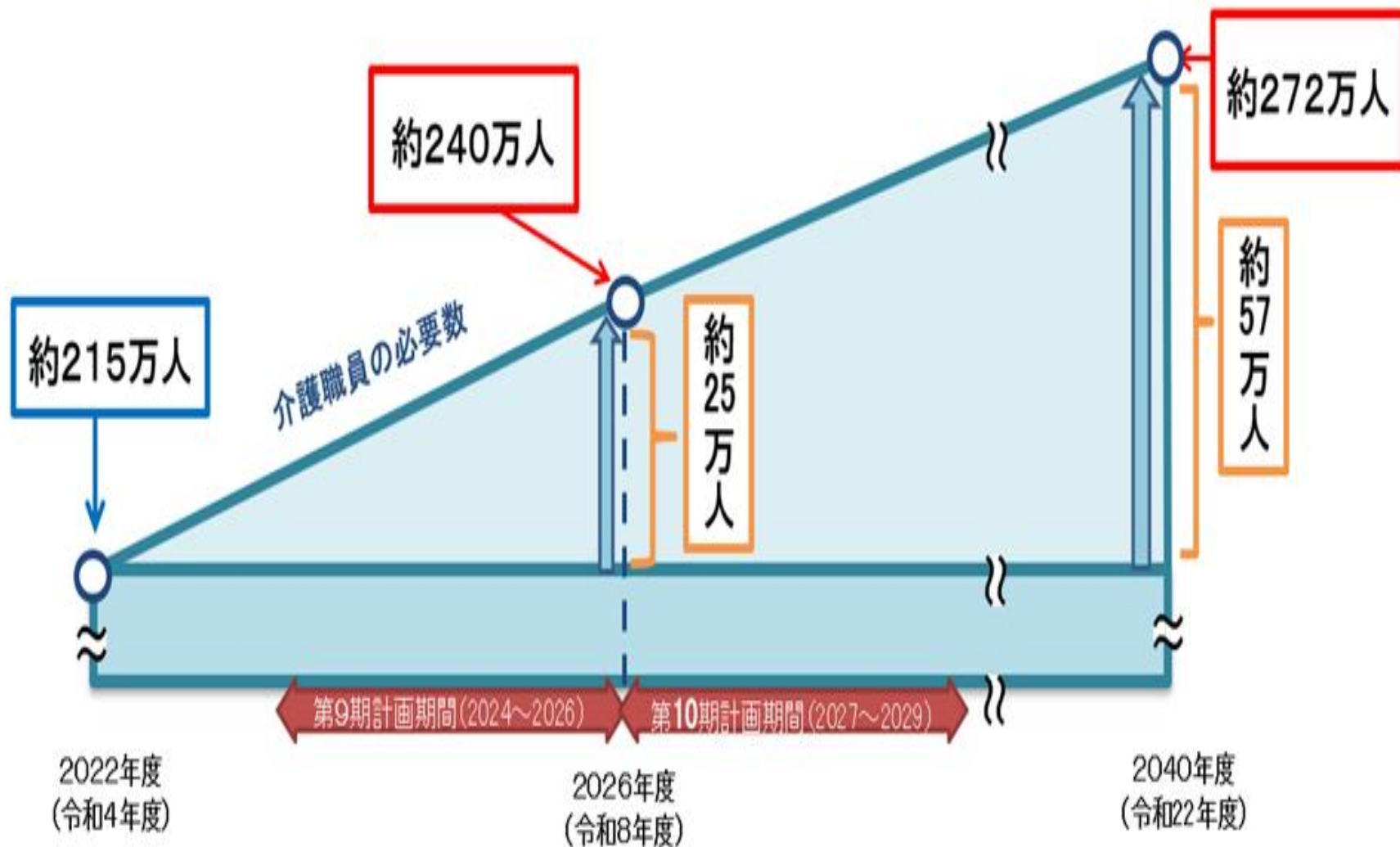
前例がない。
だから、やる。

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/dl/link1-1.pdf



Crossheart

介護人材の不足状況



出所：厚生労働省

前例がない。
だから、やる。



Crossheart

総合的な介護人材確保対策

- 1 介護職員の処遇改善
- 2 ダイバーシティ人材の確保・育成
- 3 生産性の向上
- 4 介護職の魅力向上
- 5 外国人人材の受入れ環境整備

前例がない。
だから、やる。



ダイバーシティ人材の確保・育成

介護 人材

多様な人材
の採用

- ・ 退職、休暇
人材再復帰
- ・ シルバー人
材の採用
- ・ 外国人人材
の採用

業務細分化

- ・ 勤務時間の
多様化
- ・ 直接ケアと
間接支援業
務の分解
- ・ 各種補助金
の投入

技術の導入

- ・ ICT機械の
活用
- ・ 介護ロボッ
トの導入
- ・ 多言語シス
テムの導入

前例がない。
だから、やる。



Crossheart

外国人人材の受入れ環境整備

- 2008年：EPA協定による外国人介護人材受け入れ開始（インドネシア等3国）
- 2017年：技能実習制度に「介護」が追加される
- 2017年：介護ビザが創設
- 2019年：特定技能制度（介護分野含む）がスタート
- 2019年：特定活動46制度がスタート
- 2020年～：ICT導入・介護ロボット導入支援の拡充

前例がない。
だから、やる。

ダイバーシティ人材現状と育成

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
人数	2	199	217	266	330	265	128	6	1413
割合	0.14%	14.08%	15.36%	18.83%	23.35%	18.75%	9.06%	0.42%	100%

職員研修

新任層

新卒研修

新入職研修

中間層

介護基礎研

介護実務者研修

管理層

管理職養成研修

施設長研修

バックアップ

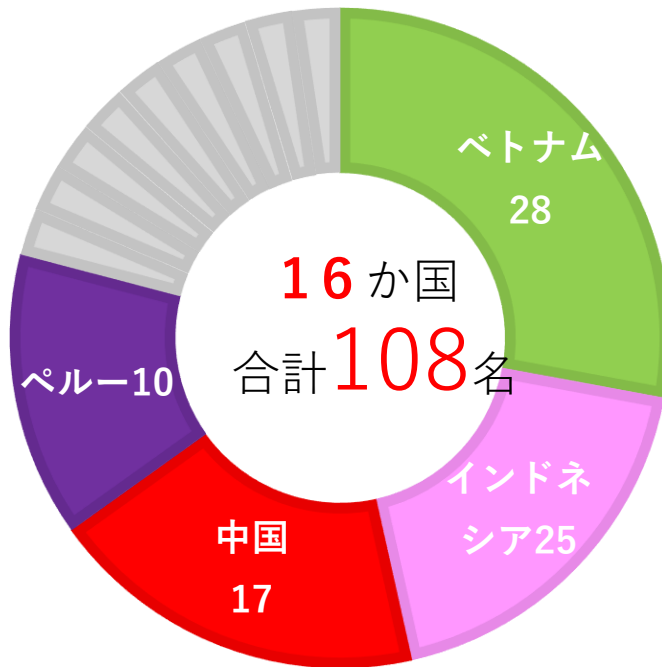
外国籍職員研修

経営自主勉強会「伸こう塾」

前例がない。
だから、やる。

法人内の外国籍スタッフの状況

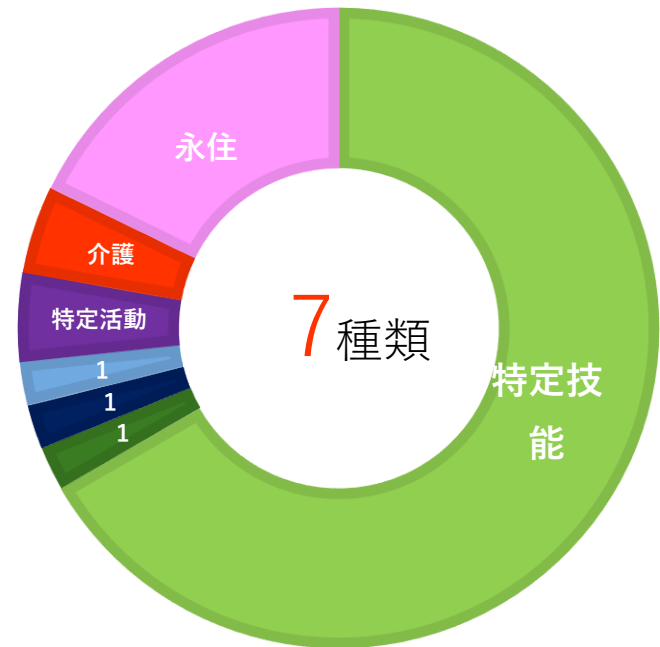
国別人数



その他

ブラジル	台湾
ホンジュラス	アルゼンチン
ベネズエラ	スウェーデン
インドネシア	韓国
カナダ	タイ
グアテマラ	フィリピン

ビザの種類



その他

定住者
留学
日本人の配偶者



定着に向けた取り組み

1. 相談窓口の設置
リーダー担当者を決めている
2. 3ヵ月毎に定期面談実施している
＊上長面談、個人面談
3. 資格取得の支援
4. インターナショナルクラブの開催（バス旅行）
5. 住宅手配やビザの更新などの支援
6. 各補助金などの有効活用

前例がない。
だから、やる。



定着に向けた取り組み

7. 年6回実施（奇数月）

- ・ 人権と尊厳、日本マナー、文化
- ・ コミュニケーション力、電話対応
- ・ ボディーマカニズムと力の使い方、三大介護
- ・ 感染症、服薬
- ・ リスクマネジメント、事故報告書の書き方
- ・ 認知症介護について

前例がない。
だから、やる。

研修時写真



前例がない。
だから、やる。

バス旅行時写真



前例がない。
だから、やる。



課題

- ① 中間管理職の育成
- ② 外国人職員の長期休暇問題
- ③ 年齢層が高い職員が多いため、ロボットや I C T 機械など導入、活用が遅れている
- ④ 介護保険制度が細かいところまで決められているため、個性と柔軟な対応が難しい
- ⑤ 利用者から受けたハラスメント、セクハラ問題

前例がない。
だから、やる。



日中介護人材の展望

日中両国は、共に高齢化社会に直面しており、介護人材の育成と確保が重要な課題となっています。今後は、更なる待遇改善や職業としての魅力向上・発信、国際的な人材の交流の促進など、多角的なアプローチが必要とされます。

- ・ 中間管理職の育成、交流
- ・ 現場の意識改革
- ・ 包括的な教育プログラムの充実
- ・ AI や技術の導入
- ・ 在留資格の増設と家族帯同の可能性拡大

前例がない。
だから、やる。



Crossheart

引用・参考文献

- ・厚生労働省

<https://www.mhlw.go.jp/content/12004000/001274769.pdf>

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/dl/link1-1.pdf

前例がない。
だから、やる。

ご清聴ありがとうございました



Crossheart



前例がない。
だから、やる。

看護大学生の実践能力の育成に向けた教

王麗華

大東文化大学

看護師資格を取得前の看護基礎教育では、知識・技術・実践力を身につけるため、授業、演習・臨地実習の流れで学修を進める。患者の療養に影響がない臨地実習での看護実践をする機会が限られている。そこで、臨地実習の前段階で、実践力を高める学習として「シミュレーション教育」が注目されている。

実践できる看護基礎教育の探求

大東文化大学スポーツ・健康科学部看護学科は、2018年学科開設以来、教育目標「看護専門職として自ら主体的に学問を探究し、好奇心に満ちた豊かな人格形成と多文化社会に生きる様々な人々への理解を涵養し、住み慣れた地域社会における生活者の健康回復・維持・増進に向けて創造的に活用するための看護実践能力を発揮できる人材を育成する」ことを目指し、2024年に7年目を迎えた。具体的には「看護師として社会のニーズに即し、必要とされる知識・技術・態度を身につけ、基本的な看護実践能力を修得できる。」を目標に、学生が受け身ではなく主体的に学ぶ教育を展開していた。

そこで、アクティブラーニングの手法の一つである「シミュレーション教育」に着目し、看護現場の実際の状況を再現しながら専門的な知識・技術・姿勢と態度を総合して学修する教育を探究し続けている。看護におけるシミュレーション教育は、人体構造、バイタルサイン、身体の正常と異常の再現により医療現場に近い環境で実施した看護を繰り返し学修できる利点ため、実践力を高める成果が大きい。地域・在宅・公衆衛生看護教育分野において、大東文化大学では学科開設の準備の時代から自宅での看護場면을再現できるように居宅に近い演習室を設計し、シミュレータを用いて学生の実践力を高める教育を進めている。

思考力を養うシミュレーション教育の展望

シミュレーション教育では、設備や場がある前提で実施されている。シミュレータを用いた人体の構造を知るためのトレーニングが必要であるが、学生がキャンパスに集まれないと学べないという現状が課題だといえる。そのため、シミュレーション教育を支える e-Learning 教材の開発に期待を寄せている。WEB 上で場面を設定しながら看護対象を既往歴や現病状の変化の場面などを再現して、学生の判断力を養うためのシミュレーション教育が場を問わずに看護実践力の学修につながると考える。

臨床では、多重課題を抱えている患者に必要な看護を提供できるように現任看護師も臨床の判断力を研鑽し続けている。これからシミュレータというリアルな教材と e-Learning 教材開発は、学生の看護基礎教育や看護師の現任教育に役立つリソースになると考える。

中日両国の小学校教員養成および育成に関する一考察

—北京第一実験小学校における算数科「同課異講」を通して—

鈴木詞雄 福富友希 山田聖矢 吉田佳麟 久保徳子 岩本陽華 西巻聡泰 佐藤直美 他
創価大学

1 研究の背景と目的

創価大学大学院教職研究科（教職大学院）では、開学以来「教育課題実地研究」という授業科目の中に4つのコースを設定し、国内外の教育現場を訪問し、教育交流を行ってきた。特に中国とは「同課異講」というスタイルで授業研究を行ってきた。「同課異講」とは、同教科・同単元を異なるアプローチで授業デザインし、お互いの国のよさや課題をみつけるための授業研究を行うという1つの交流スタイルである。2024年度は同プログラムを教育学部生に体験させた成果と課題を確認するとともに、今後の教育活動、研究活動にどのように繋げたり、発展させたりするべきかを考察する。

2 研究方法

(1) 中国の教育状況の把握

中国の教育状況について歴史的および多角的な観点から講義を行う（7単位時間）。例えば教育目標を比較すると、両国とも子供の competency を育てることを目標にしていることが分かる（図1）。competency は中国語で「核心素養」、日本語で「資質・能力」となる。中国の「能力」「概念」「品格」は、日本の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」にあたと考えられる（鈴木詞雄他, 2022）。

(2) 「同課異講」のアプローチによる中日両国の算数科授業に関する比較研究

北京第一実験小学校の第4学年の児童に対して「線対称」の授業を行う。まず中国の教師が1つの学級に対して授業を行い、次に日本の学生が別の学級に対して授業を行う。その後、北京教育学院の教員も交えて協議を行う。日本に帰国してからリフレクションを行う。

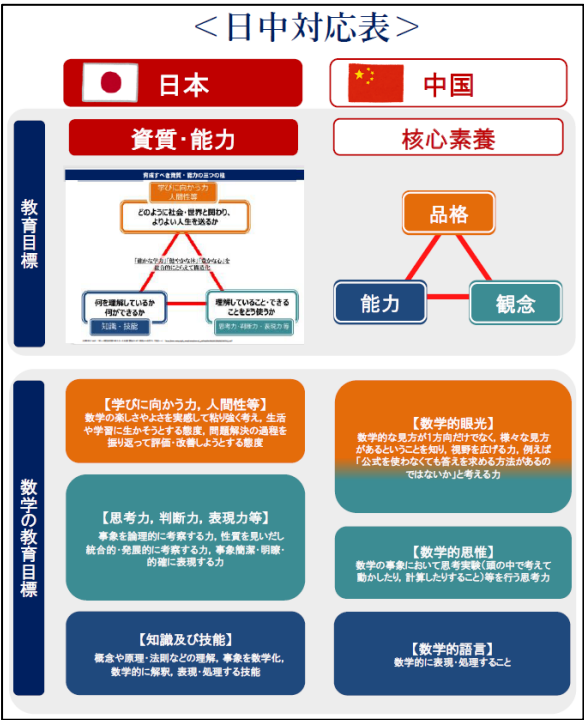


図1 教育目標の日中対照表

3 結果および考察

(1) 「同課異講」のアプローチによる中日両国の算数科授業に関する比較（教育学部生）

教育学部生が行った「同課異講」のアプローチによる比較結果および考察を以下に示す。

① 導入場面

	日本の授業	中国の授業
結果	【身近な事象との関連】 身近な物（日本のアニメキャラクター・建物・アルファベット・図形） 【教師の言葉がけ】 「これらの形の共通点は何ですか」	【身近な事象との関連】 歴史的建造物や自国の偉人等 【教師の言葉がけ】 「数学の目で見てください」
考察	・日常生活との関連性を大切にし、身の回りから対称な図形を見つけようとする態度を育成しようとしている。 ・本時の学習内容を理解させる意図がある。	・他教科との関連性を大切にしながら、国民の誇りを高めようとしている。 ・数学を学ぶ価値を理解させる意図がある。

② 定義・特徴の確認場面

	日本の授業	中国の授業
結果	- 線対称なキャラクターや建物を見た上で線対称な図形の定義と対称な軸について確認した。 【定義】 - 一本の直線を折り目にして、ぴったり重なる図形を線対称な図形と言う。 - そして、折り目の直線のことを対称な軸と言う。	- 映像で確認し、線対称な図形を作図した上で、線対称な図形にはどのような性質があるのかを考えた。 【性質】 - 対応する点から軸までの距離が等しい - 対応する点を結んだ直線と軸が垂直な関係である - 折ったら重なる
考察	図形を折る操作活動を通して、複雑な図形でも線対称な図形を見つけられる意図がある。	図形をかく操作活動を通して、線対称な図形の性質に気づかせる意図がある。

③ 展開場面

	日本の授業	中国の授業
結果	- ミッションカード (i) 【活動内容】 - 一人一人に異なる課題を与え、その課題をグループ内で共有 (ii) し、線対称な図形と対称な軸の本数を見つける活動 - 特に北海道を取り上げ、対称な軸が何本あるのかをクラス全体で議論 【教材】 47都道府県の県章	- マッチングゲーム 【活動内容】 - グループ内で1枚用意された画像の特徴を見つける。(i) - 自分のグループの画像の特徴を発表 (i) し、同じ画像を持っている他のグループとマッチングする活動 (ii) 【教材】 - 中国の建物
考察	- i 主体的に課題を解決する力の育成 - ii 観察力・コミュニケーション力の育成	- i 観察力・コミュニケーション力の育成 - ii 児童と児童の共有→主体的な学びの実現

(2) 「同課異講」のアプローチによる学び(教育学部生)

上記のような比較の中で、学生たちは中国の授業のよさや日本の授業のよさを認識することができた。また、教育学部生によるリフレクションの中で、次のような意見も挙げられた。

- 中国の授業の振り返りにおいて、「今日の授業で何を学びましたか？」という教師の問いかけに対し、数学的な言葉を用いて振り返った児童(距離・長さ・垂直・ぴったり重なる)や、生活との関連について述べた児童(歴史・建築物)等が見られた。振り返りがまとめや感想に終始しない点が素晴らしいと感じた。

4 総合考察

教育学部生においても「同課異講」のアプローチは中日両国の教育の認識に関する比較研究に十分な成果をもたらすことが分かった。このような研究は、国際的な現代的諸課題に対して新たな価値観や行動を生み出す教師自身の学びとして、教育実践に大いに還元されることが期待できる。ただし、比較研究の観点や方法をもっと吟味する必要があると考える。今後も研究を重ね、中日両国の教育の認識に関する共通点や相違点を明確にしたい。また本実践を土台として、よりよい教育交流のモデル開発の継続実施を提案したい。

5 引用・参考文献

- 高木敬一・是川賢一・田久保響・立山開・長島明純・鈴木詞雄・董芳勝(2023)「小学校算数科における指導観の比較研究—首都師範大学附属朝陽実験小学校との「同課異講」を通して—」『中日教育研究学会 2023 年研究大会』中日教育研究学会
- 鈴木詞雄・岩間愛智・星原律・董芳勝・長島明純(2022)「中日両国の教育の認識に関する比較研究—数学科「同課異講」を通して—」『中日教育研究学会 2022 年研究大会』中日教育研究学会
- 北野明子・根津雅子・長島明純・董芳勝・鈴木詞雄(2021)「中日両国の『同課異講』のオンライン授業の工夫に関する研究—新しい国際的な授業交流の開発を目指して—」『中日教育研究学会 2021 年研究大会』中日教育研究学会